

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	敬愛大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ケイアイダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	アジアビジネス実習
	学部・研究科等名	経済学部・経営学科
	担当教職員名・役職	彌島 康朗・特任教授
要素①	受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	6
	受入企業等数	4
	受入企業等名	ピー・トランセホールディングス株式会社、株式会社三和テレム、 広島建設株式会社、成田国際空港株式会社
	インターンシップの分類	9. 中小企業でのインターンシップ 10. 地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	①お客様対応(接客)やデータ入力業務を通じ、企業活動に必要な知識の習得に励み、その成果を企業担当者に対してプレゼンテーションを行う。②企業の課題解決のために、アンケート調査や課題分析を通じて新たな企画・立案を行い最終的には企業の役員の前でプレゼンテーションを実施し、講評をいただく。
	要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。
2-2.該当するインターンシップの内容		3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 4.当該インターンシップは、必修科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)		
2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)		3年次
2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)		2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)		経営学科の3年生を対象とし夏期休業期間中に1週間以上のインターンシップを組み合わせた必修科目として実施している。本科目では、事前学習・インターンシップ実習・事後学習を通じ、学生のより高い就業意識と職業観の育成や専門分野への理解を促すものとなっている。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	

	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	全15回の事前学習の中でインターンシップの趣旨や目的の理解(第1回)、インターンシップ中における目標設定などを行うと共に(第2~3回)、インターンシップマッチングフェア(第4回)で決定した企業のビジネスモデルなどの研究(第5~13回)、そして、ビジネスマナー研修(第14回)やリスクマネジメント(第15回)を実施している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	目標設定したものが、就業体験と自らの学びがどのようにつながったのかを振り返る目的で、日報から読み取れる強みと弱み、向上した能力と反省点などを読み取りグループワークを行い、最終成果として企業担当者を招いた報告会を実施している。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	就業体験期間中に学生から報告される日報(日誌)の内容を確認し、事前設定した目標達成に向けた指導を電話やメールなどの通信手段を活用し実施している。また、就業体験期間中の実習の観察や最終日に実施される報告会でのプレゼンテーションに対する企業の講評などでも学生指導を実施している。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	就業体験終了後、「インターンシップ取り組み評価シート」を用いて企業担当者より評価をいただき、インターンシップ前後の行動変容を客観的に捉え学生の自己理解を促している。そして、企業人として変化に対応できる判断力や実践力などを体得する動機づけに資するような指導を実施している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	①企業Aにおいては、5日間のインターンシップを実施している。②企業Bにおいては、2日間の事前研修を経て5日間のインターンシップを実施している(合計7日間)。③企業Cにおいては、関係企業様への訪問や実務経験など合わせて10日間のインターンシップを実施している。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとつての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	事前にインターンシップの意義や目的を受け入れ企業にご理解いただいた上で、インターンシップカリキュラムの企画・設計をさせていただいている。カリキュラムは企業毎で異なるが、大学・企業双方で事前の内容確認を経て決定している。さらに、「インターンシップ取り組み評価シート」にて職業体験中の評価をいただいている。
	7.上記①~⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.u-keiai.ac.jp/
問い合わせ先	大学等名	敬愛大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	参与
	担当者氏名	中村 幸一
	電話番号	043-284-8333
	メールアドレス	career@u-keiai.ac.jp